

電照ぎくの1～2月出し無摘心栽培における日長操作による品質向上技術

【要約】 電照ぎくの1～2月出し無摘心栽培において、切り花品質を向上させるための再照明は、消灯後15日目に花芽が総苞形成前期～後期に達してから3日間程度行う。早朝照明は長期間行うと柳芽が多発するので、消灯後10日間早朝1時間行うとよい。

園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室

連絡先

092-922-4111

部会名	園 芸	専 門	裁 培	対 象	花き類	分類	普及
-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----

【背景・ねらい】

電照ぎく産地では、「秀芳の力」を主体とした冬～春出し栽培が行われているが、最近、生育期間の短縮と生産性の向上を目的とした無摘心栽培が定着しつつある。しかし、本県の気象条件は冬季が寡日照であるため、上位葉が充実し、花容の優れた切り花を安定的に生産する技術については十分確立されていない。そこで、冬～春出しの主要作型である1～2月出し無摘心栽培について、消灯後および花芽誘導期の再照明と早朝照明方法について検討し、品質向上技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①再照明は上位葉の充実と舌状花数の増加に有効であるが、花芽の発育程度によって効果が異なる。1月出し無摘心栽培では消灯後15日目の総苞形成前期～後期に3日間程度行うと開花遅延が少なく、切り花品質は向上する（表1）。
- ②早朝照明は切花長の確保と舌状花数の増加に対して効果が認められるが、長期の照明では開花遅延と柳芽の発生が増大する。2月出し無摘心栽培において切り花品質を向上させるためには、消灯後10日間を早朝1時間程度照明するとよい（表2）。

【成果の活用面・留意点】

- ①電照ぎく産地における切り花品質の向上のための日長操作技術として活用する。
- ②再照明を開始する際には、必ず花芽の発育程度を検鏡してから行う。
- ③再照明および早朝照明を行う場合には、最低夜温を15℃以上の適温に保つようにする。

[具体的データ]

表1 1月出し無摘心栽培における再照明が開花日
および切り花形質に及ぼす影響 (平成4年)

再照明 開始時期	照明 期間	開花日	草丈	葉数	切花 重量	舌状 花数	葉面積	総合品質
		月日	cm	枚	g		cm ²	
	自然日長	1・10	85	49	75	198	67	—
12 日 目	1日間	1・12	103	51	81	212	87	○
	3日間	1・15	103	49	82	234	93	△
	5日間	1・19	107	52	94	243	104	△
15 日 目	1日間	1・10	102	52	87	210	71	○
	3日間	1・13	106	46	87	208	87	◎
	5日間	1・17	108	53	94	212	108	△
18 日 目	1日間	1・10	105	47	95	202	68	△
	3日間	1・12	101	48	96	201	82	△
	5日間	1・15	102	49	96	209	87	△
慣行		1・21	108	50	102	225	114	—

注) ①品種「秀芳の力」、消灯11月10日

②花芽分化程度：12日目（総苞形成前期）、15日目（総苞形成前期～後期）、
18日目（総苞形成後期～小花形成前期）

③総合品質：◎良い、○普通、△不良

④慣行：12-⑤-4-③方式の再照明

表2 2月出し無摘心栽培における早朝照明が開花日
及び切り花形質に及ぼす影響 (平成5年)

早朝 照明	照明 期間	開花日	莖長	葉数	切花 重量	舌状 花数	柳芽 発生率
		日 月日	cm	枚	g		%
無処理	—	2・12	90	46	82	180	0
1 時 間	5	2・13	91	48	81	187	0
	10	2・14	99	49	81	183	0
	15	2・16	102	50	84	202	5
	20	2・22	103	51	87	203	12
2 時 間	5	2・14	96	46	81	181	0
	10	2・16	98	47	82	183	5
	15	2・19	103	49	85	203	10
	20	2・28	104	50	88	207	8

注) ①品種「秀芳の力」

②消灯12月10日

[その他]

研究課題名：電照ギクの日長操作による品質向上技術

予算区分：経常

研究期間：平成5年度（平成3～5年）

研究担当者：小林泰生、谷川孝弘、坂井康弘

発表論文等：平成3～5年度園芸研究所野菜花き部花き花木試験成績書